



発行所 アシュラムセンター
523-0894 近江八幡市中村町 567-2
Tel 0748-33-4030
Fax 0748-33-8856

アシュラムセンターホームページ
www.ashramcenter.jp

編集 アシュラム誌編集委員会

振替 01050-6-53772
アシュラムセンター

印刷 明文舎印刷商事(株)

解題

アシュラムとはインドの言葉で「退修」という意味で、スタンレー・ジョーンズ博士によって日本に紹介されたものであります。祈りの生活をもってみ前に自らを整え、今日に於ける主のご委託にこたえんというのがその願いです。

今年ベストセラーになった『君たちはどう生きるか』(原作吉野源三郎)には、ニュートンの林檎の話が興味深く描かれていて、「万有引力」の法則を思いついた17世紀の科学者アイザックニュートン。彼自身はそれをある日、瞑想している中で思いついたとしか言っていないのだが、作家吉野源三郎は、大胆にそれを構想し、実にわかりやすく、物語の主人公と、彼のおじさんとの会話の中に書く。

「ニュートンの林檎の話は、君たちも知っているね。林檎の落ちるのを見て、万有引力を思いついたという話さ。だが、林檎の落ちたことからどうして、そんなことを考えたのかしら。」「林檎は、まあ3メートルか4メートルの高さから落ちたのだらうが、ニュートンは、それが10メートルだったらどうだろう、と考えてみた。もちろん、4メートルが10メートルになったって変わりはない。(中略)だがその高さを、もつともっと増していったら、何千メートル、何万メートルという高さを越して、とうとう月の高さまでいったと考える。それでも林檎は落ちてくるのだらうか。」「重力が働いてはいる限り、無論、落ちてくるはずだね。林檎には限らない。なんだって落ちてこなければならぬはずだ。しかし月はどうだろう。月は落ちてこないじゃないか。」(『君たちはどう生きるか』より)

瞑想

学者たちはその星を見て喜びにあふれた。

マタイ2:10

主幹牧師 榎本 恵

別の元素であり、それは決して落ちてこない結論付けていた。そしてそれはそのまま、地球の周りを天体が動く「天動説」として長く信じられていたのだ。ところが、そこにコペルニクス、ガリレオ、ニュートンらが現れ、天文学や化学、物理学によって、天球が動いているのではなく、地球が動いているのであり、宇宙と地上とは違う原理ではなく、共に同じ原理原則が働いていることを証明したのだ。

確かに、林檎の実は木から落ちるが、天のお月様は落ちてこない。それは、地球が月を引っ張る引力と月が回転する遠心力がちょうど釣り合っているからなのだ。かつて古代の哲学者たちは、地上の物体が落ちるのは、そのものの持つ元素が地と同じものであり、そこに引き寄せられるのに対し、天のものは全く

るにちがいない、彼らはそう考え、ヘロデの宮殿へと向かったのだ。けれども、そこに救い主はお生まれにならなかった。「エフラタのベツレヘムよ、お前はユダの民族の中でいと小さき者、お前の中から、わたしたちのためにイサエルを治める者がでる。(ミカ5:1) この預言書(マタイはこれに手を加えるが)の言葉が、彼らを再び救い主の発見へと導く。何も無い田舎の寒村であるベツレヘム、

さて、前置きが長くなってしまったが、いよいよ本題に入ろう。クリスマス之夜、東方の学者たちは、東の空に輝く一つの星を見つけた。彼らそれが、救い主の誕生を知らせる星であることを理解し、はるばるイスラエルの地へとやってきた。ところが、彼らの常識がその星を見失わせる。王の子は、きっとその国一の都市エルサレムの王宮の羽布団の中に寝かされてい

「あたりまえのことというものが曲者なんだ。わかりきったことのように考え、それでも追っかけて考えて行くこと、もう分かり切ったことだなんて言っていられないようなことにはぶつかるんだよね」(『君たちはどう生きるか』より)

しかも家畜小屋の飼い葉桶の中に寝かされているみすばらしい幼子こそが、世界を救う救世主であったのだ。東方の学者たちは、「星を見て喜びにあふれた」(マタイ2:10)と福音書記者は書く。それまでの常識やしきたりを破り、民を支配し権力を振るう王ではなく、最も弱いもの低いものと共にいる神の子の誕生を発見し、彼らは喜びに溢れかえったのだ。

どうだろう。それは、宗教裁判にかけられながらも、絶対的権威である天動説に對し地動説を唱え、それまでの常識であった天も地もそれは別のものである、同じ原理原則が通じることを発見した科学者たちの喜びと同じものではなかったか。彼らもまた、その常識を覆す真理を見出し喜びあふれたのではないか。

友よ、クリスマス之夜、私たちは何を思うのか。夜空に光る星を仰ぎながら、私たちは何を考えるのか。私たちがまた、常識や権威を超える真理の星を見いだそうよ。それを見て喜びにあふれる者となるらうよ。

第42回山陰アシラム報告

遠藤 誠一

今年は14名の参加者で榎本恵牧師をお迎えし、アシラムを持つことができたことを感謝します。1日目のオリエンテーションで、「今回のアシラムを1月1日としてもう一度主に立ち返って、スタートする」と言う薦めをいただき、この日をアシラム1月1日として霊と思いを新たにすることができたことは感謝でした。

私は代表を今年からさせていただきましたが、アシラムとの初めての出会いは45年前です。「朝の15分があるあなたを変えます」のことばに、朝のみ言、祈り、讚美の生活が確かに私を変えて来たのだなと感謝しています。

最近の心理学の研究でわかかって来たことは、朝起きた時「今日はすばらしい1日だ」と思うと、心と思いが脳に働き「すばらしい1日となれ」と命令が全身に出され、「すばらしい1日となるように全身の器官・60兆個の細胞にはたらきかけられる」、その結果その日はその通りの「すばらしい1日となつていく」そうです。



それよりも、アシラムの朝の15分はもつとすばらしいのです。朝起きて「ハレルヤ！天のお父様、今日も命と健康を与えてください、すばらしい朝を迎えさせてください感謝します。今日もすばらしい1日とさせてください。」と祈り、霊の糧である「みことば、祈り、讚美」をして行くのですから、全身の60兆個の細胞がどんなにすばらし働きをしてくるでしょう。1日が感謝と喜びのうちに過ぎす事ができるのではないかと思うのです。たとえ問題のある1日になったとしても、心と脳、細胞は覚えていてくれるのではないのでしょうか。その日々の積み重ねを通して、変えられることに気がつくのです。

(山陰アシラム代表) 日本基督教団安来教会

アシラムの恵み

その4 宗教法人アシラムセンター常任運営委員会

常任運営委員 山岡義明

常任運営委員会は、2年に一度、年頭アシラムの最後に主幹牧師の招きに応じて、自主的に委員になるうと決意し、前に出て署名した人によって構成されています。近江八幡のアシラムセンターで毎月開かれ、委員は交通費自前で、遠くタイ、四国、広島、埼玉、北陸などから出席されてきました。

アシラムセンターは宗教法人なので、礼拝、アシラム、法人事務、会計、会議などの記録や保管が必要とされています。開会礼拝での「み言葉の静聴・恵みの分かち合い」の時は、本

当に恵まれます。それは、毎年夏に常任運営委員による修道場アシラム(2泊3日)において、委員はお互いの祈りの課題を祈り合っている祈りの友であり、祈りの絆で結ばれているので、夫々がその日にみ言葉から頂いた恵みは委員全員の神様からの恵みとして聞き取れるのです。今も生きて働いて下さる神様を、感謝し、感謝の思いを強くし、感謝するのです。前日から宿泊している筆者は、委員会当日の早天祈祷会での主幹牧師のメッセージから、信仰生活上の励ましと力づけをいただくことができました。早朝にみ言葉に聴き、祈る時に、神様は霊の力によって神様を信じ、神様にすべてをおゆだねすることの大切さを何度も思ったのでした。

委員会での昼食は、和洋・中の盛り沢山のごちそうで、色々なデザートやお菓子も食べ切れない程いただけます。特に、12月には、近江牛によるすき焼きを満腹させていただけると、神様の祝福にあずかれる常任運営委員会です。

年頭アシラムに出席されてぜひ常任運営委員になつて下さるようにとお祈りしています。

- ご献金者 敬称略
- 10月分
- 良雄 哲造 和子 朝子 聖書教会 要 非 玲 夫 一
- 金山 谷本 橋本 沖田 楠川 加々美 李 村瀬 杉山 阪神
- ミニアシラム 奥原 清子
- チャイム コンソート (池田)
- チャイムの会) 福岡聖書教室 明石シオン 山岡 義明 谷田部 聖子 常任運営委員会 足立タツ子 渡部 美智子 千歳 京子 上柳 香川 孝子 佐賀 昭子 正岡 ソウコ 山田 喜久子 吉田 忠美 悦子 和子 山本 横山 宇都 岩松 アシラム 持田 博 菅原 大阪聖書教室 日本アンス 呉教会 榎本 康子 榎本 光太 榎本 カフェ いろいろば 聖書入門講座 大山 悠子 直子 森山 萬里 学 松浦 昌子 辻井 センター 聖書教室 広子 禮子 吉川 祈りの家 和子 聖子 松村 ちひろば 敬師記念 チャペルタ礼拝

アシュラム修道場生活記 その22 「修道場②」

伊達 平和

あまり知られていないことだが、実は土曜日の早天祈祷会はアシュラムセンターではなく、修道場で行われている。なぜそのようなことになったのか。なかなか起きてこない修道生に強制的に「恵」を味わせるためか、毎日料理のご奉仕をしてくれるるつ子さんを気遣ってのことか…発端は覚えていない。ただ、この日ばかりはるっちゃんるんるん福音食堂は閉店し、修道生による朝ごはんが振る舞われる。大学2年生のトッシーは筆者がネチネチと締め上げた甲斐あってか、最近料理の腕を上げているが、それはまた話が長くなるのでまた別稿としたい。

修道場での早天祈祷会は少し変わった試みを行っている。この祈祷会は、聖書を「読む」祈祷会ではなく、文字通り聖書を「聴く」祈祷会である。恵牧師が聖書の箇所を2回読み、参加者はその聖書の言葉を自分に語りかけられているかのように、耳で「聴く」。そして10分間黙想し、その後分かち合いをするのである。実際にやってみるとわかるが、聖書を2回聞いただけでは、言葉の多くはふるいにかけて、ほとんど何も残らない。黙想の時に残っているのは、最終的に、ほんの1フレーズ、あるいは単語だけであり、その断片を頼りに神や自身について考えるのである。



心も耳も澄ませるひと時。
センタークリスマスの朝。京都、沖縄の友も。

このように書くと何やら難しいことをしているようであるが、しかしこれが案外面白い。普段は目で聖書を追うため、文字情報が頭を駆け巡っている。聖書の言葉を一行一行かみしめるように読む。しかし「聴く」場合は、本当に自分が気になった単語しか記憶に残らないため、その単語がイメージとなって、目を閉じて黙想しているいろいろな記憶と結びつく。時には、雨の音や風の音、動物の鳴き声が様々に絡み合って、思いもよらない方向に向かっていく。上手くいけば、なぜ今、自分がその単語やフレーズを気になったのか、必要としているのかということが理解できる。それはまるで、自分とは異なる何かに導かれているかのようなのである。余談だが、このやり方に一番フィットしてるのはおそらく康子さんである。いつのことか忘れたが、その時に聴いた聖書の箇所と庭で鳴いている鳥の鳴き声(ピーヨ、ピーヨ)が混ざって、「神様が『イーヨ、イーヨ』と語りかけてくれるような気がした」とのことである。とにかく面白くてしょうがない。

修道生が生活するだけでなく、信仰を通じた世代間交流の交わりの場ともなっている修道場。現在、老朽化が進み改築を余儀なくされており、いわゆる「新修道場計画」が進んでいる。どのような「新修道場」となるかまだまだ未知数であるが、若者と信仰の先達とがこれからも交わっていく場として再構築されていくことを願っている。

最後に裏話をして締めくくろう。なんで修道場の祈祷会がこのようなことになったのか。恵牧師に言わせると「平和くんと知恵ちゃんがやろうと言い出したから」ということになっているが、実際は、恵牧師が自分の聖書を修道場まで持ってこないから聖書が足りず、そう提案せざるを得なかった、というのが実情である。これも「不思議な神の導き」ということとしておきたい。



修道場畑の
パブリカ星人

静岡聖書教室
無名氏
安仲 萌子
池谷 治朗
東京聖書教室
桜美林

リトリート
アシュラム
井上 正子
米田 康子
米田 敬子
森戸 敬子
尾崎 幹二
吉田すみえ
第19回
愛知アシュラム
堺大浜
キリスト教会
榎本 和子
(30才誕生日)
岩波 久一
鹿屋
キリスト教会
伊達 平和
67口
¥659,944

ヨセフ基金
(義援金)
榎本 和子
ちいりば
アツちゃん・
シユラム君
アシュラムセ
ンター基金箱
吉田すみえ
4口
¥13,080

新修道場の
ために
たびんちゅ牧師
1口

るっちゃん
るんるん福音食堂
のために
メヌエット
おぼさん
1口

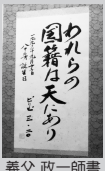
合計
73口
¥896,440

専らご献金、
ご献品、お祈り、
お便り、電話
メッセージ、
そして、共に
アシュラム!
感謝いたします

静まりの世界への主の御導き(6)

証 唄野 絢子師

(堺大浜キリスト教会)



義父 政一師書

義父が召されたとき、義父の書を集めて「政一筆跡集」を作りました。80歳の誕生日に、榎本先生の出会いのときから心に響いていた「今あるは神の恵み」と書いた書を条幅にしたのがきっかけで、その後毎年誕生日に感動したみことばを書いたので、それを条幅にしたのですが、そのうちの五つ今日もつてきました。ここに付けてあるのがそうです。86歳のときに書いた「足のくつを脱げ。あなたの立っている場所は聖なる地である」(出3:5)という軸がありますが、数年後、義父は義母のオムツ換えをするようになり、「おばあちゃんのオムツを替えるのがわしの聖なるつとめなんやな。」と言いました。義父91歳の誕生日に小宮山先生から、詩篇91篇とともに、「主にある助け手として十分に用いられよ。おばあちゃんの助け手として十

分に用いられよ。二人を見入る人々に神の栄光を拝させよ。」とお祝いと励ましのフアックスをいただきました。それに応えるように、義父は「おばあちゃんに向きを変えたのは神の恵みだった。」と言いました。「マケドニアに渡ってきて私たちを助けてくださいとの声を聞いた」(使徒16:9)というみことばは榎本先生が神さまからいただいたもので、義父が書いて枕元にずっと張っていました。命がけで伝道に励まれた榎本先生にならって自分も命がけで主に仕えようとしていたのです。義父は「みことばをじつと見ていると、みことばが語りかけてくれる。みことばに力がある。」と言っていました。書く字がひよろひよろになっても、みことばを書いて、一瞬ためらいましたが、「字の上手下手ではない、みことばに力がある。」と言っ

てくれて、いつそう意味深く受け止めました。しかし、その後おばあちゃんのお世話ができなくなったばかりか、自分も世話にならなければならなくなったとき、「こんなになってしもうては死んだほうがましかいな、と思わんでもないが、いや、そうやない、こういう状況の中で主がなんと語られるかを聞くことが肝心なんや。」と言いました。「たとえ外なる人は衰えても内なる人は日々新たにされる」(2コリント4:16)それをだれそれにあげてくれ、と言いました。昔の立派な字を知っていますから、こんな字でも?と)というみことばはかつてパネルにしていきましたが、「おじいちゃんもそんな御氣持ちですか。」と聞くと、「その通りや。ここはこの世の天国や。仕えてくれる絢子さんも、仕えられるわしも、ひとしく主の前で天の喜びを共有してるな。」と言ってくれました。何とすばらしいことばだろうと喜びが湧き上がってきました。義父が目に見えないものに目を注いでいることがよくわ

かりました。義父自身の「アシラムと私」という2002年の文章が残っていますので、ご紹介します。「私は昨年の7月、心筋梗塞で倒れ、その後、心不全、今年のはじめに肺炎をわずらい、次々と大病におかされ、医者の方から従って昨年は家で安静にして養生しました。今も続いています。したがってアシラムの集会には出られませんでした。主はこの病から救いいのちを助けだしてくださいました。そしてたくさんの方のあついたりなしの祈りをいただきました。心から感謝を申し上げます。私は30年前、榎本先生に出会い、アシラムを知りました。1973年7月の能勢川アシラムには、私も、私たちの教会の7人の友と共に参加しました。榎本先生の「唄野さん、毎日、聖書を読みましょう。」とのことばになんの疑いもなく従順に従い、毎日一章、わかってもわからなくても忠実に読み続けました。今から思うとこれは全く不思議なことでした。私にとっ

ては奇跡でした。今も続けています。「朝の15分あなたを変える」と信じます。アシラムのはじまりです。このことばは私にとつて日々の生活となりました。そしてイエスさまは十字架上で私の罪を背負い、赦し、救いの道を示し、贖ってくださいました。アシラムの行き着くところ、究極は十字架にあると示されます。榎本保郎先生は身をもってその生き様を示してくださいました。残れる生涯アシラム集会には出ることは困難になってきました。が、よき証人となって主に仕えてまいりたいと願っております。お祈りお願いします。義父は翌2003年8月94歳で召天しました。義父の晩年は、アシラムの活動には参加できませんでしたがアシラムを生きたアシラムの証人としての歩みだったように思います。「神のことばをあなたがたに話した指導者たちのことを、思い出しなさい。彼らの生活の結末をよく見て、その信仰にならいなさい。」(ヘブル13:7)。(終)

「歌声の輪に あかあかと ペチ力かな」

松平吉生兄(10年程前の讃美の会にて、於Wハウス)

瞬きの詩人

水野源三の世界 35

三浦綾子記念文学館特別研究員
森下 辰衛

母が共に 1969

我ひとり悩むのでなく 母が共に
我ひとり聞くのでなく 母が共に
我ひとり信じるのでなく 母が共に
我ひとり祈るのでなく 母が共に
我ひとり喜ぶのでなく 母が共に
我ひとり待つのでなく 母が共に



「母君にまさる友や世にある」という讚美歌は、最も良く歌われる讚美歌「いつくしみふかき友なるイエスは」と同じメロディーで歌われます。この世の最良の友は一にイエスさま、二に母なのでしょう。

我ひとり悩む。

誰であれ、「我ひとり悩む」とき、その時間は途方もなく長く辛い、それは地獄のようなものになります。それは重過ぎて一人ではとうてい担いきれない苦難だったでしょう。でも、ひとりでなく、母が共に悩んでくれた。否、我よりももっと大きな悩みで悩んでくれた。そのゆえに自分の肩が軽すぎることに、ある日源三さんは気づいたのでしょう。

我ひとり聞く。

ひとりで聞いてもよかったのです。ラジオのキリスト教放送、あるいは礼拝の録音テープでしょうか？でも、教会に行くことのできない源三さんにとっては、母が共にいて二人であることがとても重要でした。そこに源三さんの教会があったのです。我ひとりでなく、母が共にいてくれるなら、そこが兄弟姉妹のいる教会であり、イエスさまもおられる場所になったのです。

我ひとり信じる。

信仰というものは、本質的にはひとりで信じるものでしょう。でも、さまざまな荒波の攻撃

の中で、ひとりでは信じきれなくなる時があるかも知れません。ひとりでなく 母が共に信じてくれていることのありがたさ。母の信じる姿が、源三さんの信仰を励ましてくれるのです。

我ひとり祈る。

一人で祈っても聞いてくださることは分かっているのです。でも、二人、三人が心を一つにして集まり祈るところに共におられ、そうして祈られた言葉を決して聞き逃すことはないといエスさまが約束してくださったのです。だから、ひとりで祈るのでなく、母が共に祈ってくれるなら、そこにイエスさまも来てくださって耳を傾けてくださるのです。

我ひとり喜ぶ。

ひとりでも、うれしいことはうれしいのです。でも、分かち合うことが出来なかつたら、その喜びは、じきにしぼんでゆく花のようであり、襲ってくる虚しさにかけてしまうかも知れません。ひとりでなく、母が共に喜んでくれるとき、それは一人の心の中の思いに過ぎないものではなく、確かな事実、捧げものでもある感謝と証し、簡単には枯れない花になってゆくのです。

我ひとり待つ。

待つことは信じること。待つことは喜ぶこと。待つことは聞くこと。待つことは祈ること。待つことは耐えることでもありながら、それが期待のなかに解けてゆくこと。そうして大事な訪れに備えてゆくこと。でもそれらのひとつひとつも、一人でなく、母が共に通ってくれる道なのです。そしてそれらのすべてが源三さんの礼拝であり、日々の信仰生活であったのでしょう。

ひとりではないということ。人にとって、それほどに、うれしいことがあるでしょうか。横を向けば、友がいる。悲しい時も苦しい時もうれしい時も戸惑う時も、いつもいつも、一緒にいてくれる。マタイの福音書の最後に書かれている真理は「見よ世の終わりまで、あなたがたと共にいる」という約束です。“インマヌエル”神は私たちと共におられる。それは、孤独こそが人間の根源的な悲惨だからであり、しかし神はそんな人間を放っておくことが出来ない方だからです。

「主の用と 術後なお牙る ちいろば夫人 卒寿の体に リズム漲る(みなぎる)」

小林佳子姉、歌集 であり 第二集 ちいろばファミリーより(前常任運営委員)

1月の聖書教室など

4(金)	阪神ミニアシュラム (主恩教会 PM 1:00)
10(木)	常任運営委員会 (アシュラムセンター)
14(月)	福岡聖書教室 (博多クリオコートホテル PM1:30)
15(火)	大阪聖書教室 (大阪クリスチャンセンター AM10:30)
16(水)	カフェちいろば聖書入門講座 (京都・伏見区深草 PM1:30)
17(木)	新さん祈りの家 (滋賀県湖南市 AM10:00)
18(金)	センター聖書教室 (アシュラムセンター AM11:00)
20(日)	ちいろば牧師記念チャペルタ礼拝・愛餐会 (PM5:00)
28(月)	静岡聖書教室 (旧・英和女学院宣教師館 PM2:00)
29(火)	東京聖書教室 (御茶ノ水クリスチャンセンター 4F AM10:30)
29(火)	桜美林リトリートアシュラム (桜美林大学荊冠堂 PM2:30)

1月のアシュラムなど

第44回 年頭アシュラム (関西セミナーハウス)
 主題「ただし、わたしとわたしの家は主に仕えます。」
 ヨシュア 24 : 15


奉仕者 榎本恵師
 岡山敦彦師
 (大分恵みキリスト教会) (日本アシュラム連盟理事)
 「信仰の眼で読み解く絵画」著者 (いのちのことは社)

★詳細は、案内チラシをご覧ください
 0748-33-4030 アシュラムセンター

1/24(木) ~ 26(土)

皆様のご参加
 おまちしています。


お申し込みは
 なるべく1月12日
 (土)までに!



第44回 年頭アシュラム前に、今年の年頭アシュラム参加者からの御礼文より一部をご紹介します

.....この時代の混乱の中で、あの嵐の中で眠っておられたイエス様のお姿はとても象徴的ですが、私には生々しい現実のことと迫ってまいります。

この世の事柄は変わらないように見えても、神様の御旨は着々と進んでいく、そんなビジョンをアシュラムの祈りの輪は実現させてゆくと信じております..... (有賀芳子姉)



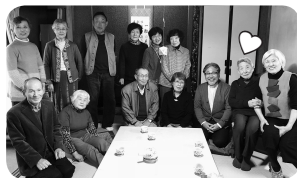
2月のアシュラム予定

2(土)	第49回 呉アシュラム	0823-21-8571
3(日)	奉仕者 榎本 恵師	日本アライアンス呉教会
25(月)	台湾アシュラム(新竹)	048-789-1325
27(水)	(ツアー予定あり)	加々美 要師

♡一和子母、どちらの集会にも参加。みことばと皆様のお祈りに感謝。てる子師と共に主の御用に励む和子母。コンをつめすぎぬよう...



新さん祈りの家、歩み始めています。



広野祈りの家、猪瀬姉宅で10年続けられ。

みことば

下妻シャロームキリスト教会牧師

山本 悦子

列王記下20章

「ヒゼキヤの病氣」

イザヤが訪ねて来て、「主はこう言われる。『あなたは死ぬことになっていて、命はないのだから、家族に遺言しなさい』』と言った。

するとヒゼキヤは顔を壁に向けて、主に祈りました。「ああ主よ。わたしがまことを尽くし、ひたむきな心をもって御前を歩み、御目にかなう善いことを行ってきたことを思い起こしてください。」こう言ってヒゼキヤは涙を流して大いに泣いたのです。

あなたは死ぬことになっていると言われたら、私たちはどうするのでしょうか。ヒゼキヤは耐え難い宣告を受け、直ちに顔を壁に向けて祈りました。それは精神を集中しもっぱら神と交わるためでした。

死を宣告されたヒゼキヤは、人を避け一人になって泣いたのです。誰でも死を宣告されれば悩み苦しみます。このことは他人に変わって貰うことができないのです。たった一人でこれに向かわねばなりません。

涙が彼の誠実さと絶望的状态を強調しています。彼の祈りと涙が神の心を動かしたのです。

主は言われます「わたしはあなたの祈りを聞き、涙を見た。見よ、わたしはあなたをいやす。」ヒゼキヤは回復し、寿命は15年も延びたのです。

空っぽになった自分を神の前に差し出すと、聖霊で満たされます。余計なもの(常識や自分の考え)が入っていたら、それを満たすことはできません。自己を無にして自分が罪人と自覚するとき、神との交わりが始まるのです。そこには富も力も知識も問題とされません。

あしがき

いよいよ新しい年が始まる。2018年を表す漢字は「災」だったという。たしかに、地震、台風、水害、酷暑と大変な年であった。けれども2019年が、私たちにとってどんな年になろうとも、神は私たちを祝してくださる。そう信じ「祝」の字が選ばれたことを信じ歩んでいこう。(恵)